

## 高等学校における薬物乱用防止教育に関する事例研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤田, 信一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00010337">https://doi.org/10.14945/00010337</a>

## 高等学校における薬物乱用防止教育に関する事例研究

Case study of Teaching Method on Prevention of Drug abuse in High School Health Education

赤 田 信 一

Shinichi AKADA

（平成15年10月1日受理）

### 1 はじめに

今日、覚せい剤等の薬物乱用は、世界的な広がりを見せ、人間の生命はもとより、あらゆる社会組織や国の秩序や安全を脅かすなど、人類が抱える最も深刻な社会問題の一つとなっている。日本の薬物事犯は、これまで覚せい剤を主体に毎年2万人前後の検挙者で推移してきており、先進諸国の中では最も薬物乱用が少ない国のひとつとされてきた。しかし、近年の人的文化的な国際交流が盛んとなり、人々の価値観の多様化、また社会的なストレスの増加、薬物の密輸の活発化、薬物乱用のファッション化などの社会状況の変化などを背景に、覚せい剤等の乱用者は増加傾向にある。

このような社会状況の中、覚せい剤等の薬物が大人だけでなく未成年者にまでその魔手を伸ばしている社会状況も指摘されている。平成11年の総理府による調査では、「ここ三年くらいの間に、自分の周囲で薬物を使っている人がいるようなことを見聞きしたことがあるか」との設問に対し、「ある」と答えた者は10.0%、「ない」は89.5%、「答えたくない・わからない」が0.5%である一方、20歳未満の未成年では16.2%で、他の年齢層より高い結果となったことが明らかにされた。また、「5年くらいの間に、人から『薬物を使ってみないか』と誘われたことがあるか」という問いに対して、「誘われたことがある」と答えた者は全体では1.1%、年齢区分別に見ると、20歳未満の未成年では1.9%で、20～29歳4.3%という結果が示されており、やはり、若者に誘惑の魔手がのびてきていることが示されている。加えて、「誘われたことがある」と答えた者に、「誘った者は誰か」を尋ねた結果では「友人から」が42.1%、「知人から」が31.6%、「外国人の密売人から」が23.7%と、薬物乱用の誘惑が本人の生活圏に近い相手からのことが多くなっており、このことは、薬物が未成年者の「すぐ身の回り」に存在していることを示している。

このような状況を踏まえ、高校生が薬物乱用の誘惑から開放され、薬物を乱用しない人生を歩んでいけるための力を与えるべく、高等学校のカリキュラムに位置づく科目「保健」では、単元：「現代社会と健康」の中の「健康の保持増進と疾病の予防」において『薬物乱用の防止』の学習内容を用意している。

そこで本稿では、高等学校における「薬物乱用防止教育」の充実を目指し、授業プランの作成と、実際にその授業プランに準じた授業を受講した高校生が、その授業をどう評価したかに

ついて提示するものとした。一事例研究ではあるが、この成果が、今後の日本の薬物乱用防止教育の発展に対し、一助になれば幸いである。

なお、本研究における授業の実践は、静岡県の公立高等学校1校（普通科；一年生）を対象とし、行なわれたものである。

## 2 授業の展開

ここでは一時間構成の授業展開について、場面1から場面8の8つの段階に分け、それぞれの場面における授業実践上のねらいや注意事項を含めて明記していく。

**場面1** 人間が心身ともに豊かに成長するためには様々な体験が必要であることを伝える場面。

授業タイトルを示す。

【板書】

薬物を乱用しない人生の選択（そのための対処能力の育成）

まず、人間が成長するためには様々な生活体験が必要であることを、教師の体験談を交えながら伝える。

【板書】

成長のために必要な生活体験

例えば、何かに挑戦し、成功感・達成感を得たという生活体験は、その人自身に幸福感や生きている実感を与える。また、そのような体験が、さらにその人のその後の行動を意欲的・積極的にさせ、また新たな素晴らしい生活体験を得る事ができたりする。このように、生活体験はその人間を向上させたり自己実現をはかったりすることにおいて非常に重要なことであることを伝えていく。もちろん、成功だけでなく失敗という体験からも、人間はそこから多くを学べるわけであり、その様な体験談を伝えてもよいと思われる。

**展開2** しかし、人間の豊かな成長には様々な体験が必要ではあるが、その成長を妨げることにはしかない体験、人を不幸にしかさせない体験が、「薬物乱用」であることを伝える場面。

人間が成長するためには様々な生活体験が必要であるが、絶対に体験してはならないことがいくつかあり、そのひとつとして、薬物の乱用があることを伝え、その理由の一端を紹介する（詳しくは展開5にて）。加えて、その体験は、乱用者を必ず不幸にすることを伝える。

【板書】

体験しては絶対にダメなこと 薬物の乱用（覚せい剤 麻薬 シンナー）

理由の一端として次の内容を適宜伝える。例えば、一回の薬物使用が人を死に追いやることがあること。その人から自由を奪い薬物に束縛された生活となること。健全な思考・社会常識的な行動ができなくなること。薬物の乱用により他人の命や生活を奪ってしまうこと。どんなに量が少なくても、たった一度だけの使用でも、前の体の状態には戻れないこと、など。

【板書】

薬物乱用の体験はその人を必ず不幸にする

その人と関係する人々を不幸にする

板書しながら、薬物の乱用という体験は、その乱用者を必ず不幸にし、その人の健康・生命に重大な被害をもたらすこと、同時に社会に対しても重大な被害（人間関係の崩壊、暴力、傷害・殺人）をもたらすことを伝え、だからこそ、薬物乱用という体験を決してしてはならないことを伝える。この場面で、薬物乱用という体験は、自分の人生にとってなんらメリットのないことであることをしっかりと伝える。

場面3 その薬物が身近に迫りくる社会状況になっていること、また若い世代が薬物の売人からその販売のターゲットにされていることを伝える場面。

この不幸しか生まない体験である薬物乱用であるが、残念なことに、その薬物が私たちの身近に迫っている社会状況があることを、板書を利用しながら伝える。

【板書】

残念な社会状況＝薬物が身近にまで迫っている

社会状況として次のようなことを示す。1) 暴力団などの組織やそれと関わる売人の活動の活発化。2) 通信手段の発達により携帯電話やインターネットなど通信手段の発達またその匿名性により、悪・闇の世界との接触が簡単になったこと。3) 呼び名の変更（エス、スピード等）による覚せい剤の新たなイメージづくりが行われそのファッション感覚が高まったこと。4) 乱用（摂取）方法が注射式からあぶり式また錠剤式と次々に簡便化が図られ、乱用（摂取）に対する心理的抵抗感が低減されたこと。

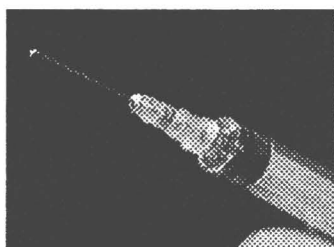
【板書】

売人の活動が活発化

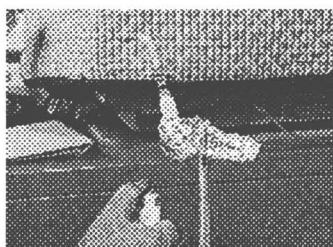
匿名での悪・闇の世界との接触が可能

覚せい剤＝エス、スピード、クリスタル、アイス、やせ薬など

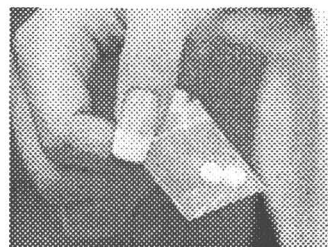
簡便な乱用（摂取）方法 注射器の利用やあぶりから、錠剤へ（資料 1-1、1-2、1-3）



【資料 1-1 注射器で摂取】



【資料 1-2 あぶりで摂取】



【資料 1-3 錠剤で摂取】

そして、薬物の売人は高校生など若い世代をその販売のターゲットにしている状況があることを伝える。

【板書】

若い世代がターゲットにされている

また、さまざまな理由から、一部の若い世代の人々自身が、薬物に手をのばしてしまう状況が生じている。

【板書】

若い世代からのアプローチ

現在の状況は、薬物が売人によって、若い世代のかなり近くに運ばれており、高校生が手を伸ばせば、薬物に手が届いてしまうような残念な社会状況が作られていることを伝える。

**展開 4** 薬物乱用を体験しようと思えば出来てしまう時代。だからこそ、正しい知識そして適切な対処能力（意思決定と行動選択）の獲得が必要であるということを共通認識する場面。そして教師の願いとして、「薬物を乱用しない人生を送ってほしい」というメッセージを伝える場面。

高校生の身近に迫った薬物に対し、その乱用という体験を拒絶するためにも正しい知識を獲得し、また適切な対処能力（意思決定と行動選択）を獲得することが大切であることを伝える。

そして、将来的には近年の薬物に関する残念な社会状況を改善・変革しうる社会人になってほしいという願いを伝える。

加えて、自分の生命、健康、自由、そして自分と家族の幸福を維持してほしいことを伝える。

【板書】

正しい知識 適切な対処能力（意志決定と行動選択）の育成

生命、健康、自由、自分と家族の幸福の維持

**展開 5** 薬物乱用の害（心身への作用）について理解を深める場面

教科書を利用して薬物乱用が心身に与える作用について基礎的な内容を伝える。そのとき、一見プラスとも考えられる作用（多幸福感等）と、その後の絶対的なマイナス作用（精神的・身体的苦痛、幻覚等）の存在を明確に伝える。下記のような区分けの図（ワークシート1）示し、グループワークのなかで空欄に記載させていく。またこの作業の後に、薬物の作用を一種の例えとして、「一瞬だけの天使の顔」と、その後、「長期にわたる悪魔の顔」を併せ持つことを伝える（板書）。その中で、薬物というものを認識するとき、一瞬の多幸福感の後には、必ず長期に続く精神的・身体的苦痛が訪れることを併せて認識することの大切さを伝える。

【ワークシート1】（一部抜粋）

主な乱用薬物	乱用直後の作用（一瞬）	乱用後に続く作用（長期）
(例)覚せい剤	万能感・多幸福感	依存、精神異常・精神錯乱
・・・	・・・	・・・
(以下、続く)		

「一瞬だけの天使の顔」

「長期にわたる悪魔の顔」

**場面6 「薬物を乱用しようとする際の思考様式(=心)の特徴」と、その時の「心理社会的状況の特徴」、また、「薬物の乱用によって強化・維持される思考様式の特徴」について理解を深める場面**

結果的に薬物とは、その全てが「悪魔の顔」を持ち、乱用者の生命、健康、自由を急速に奪っていく。しかし、薬物を使ってみようとする人は、「一瞬だけの天使の顔」のみを想像し、その後続く「悪魔の顔」を意識から遮断する思考様式を機能させる。例えば、「自分は薬物と共存できる、薬物を使いながらも生きていける」というような思考とそれに基づく行動は、その典型例である。

また、このような思考様式が機能していく背景には、その乱用者が置かれた特徴的な心理社会的な状況があることが多い。

そこでここでは、98年に放映されたテレビ番組を視聴(資料2)させ、薬物の乱用者が、「どのような心理社会的な状況」から、「どのような思考様式を経て薬物乱用を始めたのか」について理解を深める。同時に、薬物の乱用を続けることによって機能していく思考様式(=心)の特徴も探っていく。つまり、どのような状況から薬物を乱用しようとする心が芽生えていき、そして、その薬物の乱用によりどのような心が作られていくか、について理解を深めていく。

なお、映像に出てくる女性は10代であり、高校を中退しているという。彼女らが、今後薬物乱用を断つには、専門的な医療機関での治療が必要であることは、多くの専門家が認めるであろう。

ビデオの視聴後、以下の3つの作業課題を示したプリントを配布し、5人から6人グループで議論させ、その後時間をおいて発表させる。

- ① 彼女たちが薬物の乱用を始めようとしたときの、彼女たちの置かれた状況はどのようなものだったろうか、
- ② その状況において、彼女たちが抱いた感情また思考(考え方)はどのようなものだったろうか、
- ③ 薬物の乱用を続けている彼女たちの、その思考(考え方)に異常なところがあるとしたらそれはどんなことだろうか、

グループでの話し合いを進めるにあたっては、ビデオのインタビューの内容を受け、そこから想像を膨らませて(たぶん、こんなこともあったんじゃないかな・など)考えていくよう指示をだす。映像に現れる女性は、高校生と同じ世代でもあり、共感できる部分も多いと思われるので、意見を数多く出させたい。

このように、ここでは実際に薬物乱用をしてしまった人の“体験”や“思考様式(心)”の変遷を追っていくことになる。この作業を通して、自分とはまったく違った薬物乱用者の体験や思考(心)のありように気づくと同時に、逆に、自分ときわめて近い体験や思考を彼女たちも持っていることに気づかせたい。この“近さ”や“似ているところ”を見つけることにより、薬物乱用という行動選択が、まったくの他人事ではないことを高校生に気づかせたい。

**【資料2】(映像を視聴させると同時に、インタビュー内容は以下の内容を活字に起こし配布)**

## ビデオのインタビュー内容

どうして覚せい剤をやるの？

楽しいから。S(エス=覚せい剤)はハイになって、気分よくなる。

ストレス発散できるから。

どういうストレスがあるの？

学校にいけば縛られて、家に帰れば縛られている。でも、S(エス=覚せい剤)をやれば開放的になれる。

学校の勉強はわからない。中学3年の後半から全然わからなくなった。ついていけなかった。

家は好き？

家は嫌い。自分のやりたいことについて親からとやかく言われたくない。みんなとワイワイするのが好き。

家に帰ると一人だからつまらない。一人だと淋しい。

普段どんなことをしているの？

普通に、カラオケにいったり、女だけだとナンパ待ちとか、ナンパでドライブに行ったり、その人の家に行ったりとか。そこでまたS(エス=覚せい剤)があるとやっちゃう。

S(エス=覚せい剤)をやるとどういう感じになるの？

やるとわかるけど、どうなってもいいと思う

よね。その場がよければいいよね。

別の症状はでるの？

幻聴はある。ザワザワする感じ。他には、そこらへんで歩いていると、S(エス=覚せい剤)やったことがバレないかなあとって、全員が私服警察に見える。捕まらないのに、捕まると思ってしまう。うつむいてしまって、心臓がバクバクする。

他人や友だちからS(エス=覚せい剤)を誘われたりしたらどうする？

やるって誘われたら、絶対にやる。電話がきたら、どこにいてもそこに駆けつけるよね。

**展開 7** 薬物乱用の開始のきっかけとなる心理社会状況や思考様式のそれぞれに対して、複数の対処の方法を見出し、その対処法を活用し問題を解決していくことが、薬物乱用の防止にとって重要であることを理解する。

場面6の作業課題①②の実施において、薬物乱用の開始のきっかけとなる心理社会的状況とそこから生まれる思考様式についての意見(指摘)のそれぞれに対し、どう対処していけば、「薬物乱用をしない」とする行動を選択ができるかについて、以下の2つの作業課題を示したプリントを配布し、5人から6人グループで議論させ、その後時間をおいて発表させる。

- ① もし、あなたが、薬物の乱用を始めようとしたときの彼女たちの置かれた状況と同じ状況に置かれたとしたら、あなたは、どのように対処して、その状況を打破しようと思いますか。
- ② もし、あなたが、薬物の乱用を始めようとしたときの彼女たちが抱いた感情や思考(考え方)と同じ感情や思考(考え方)を抱いてしまいそうになったとしたら、あなたは、どのように対処して、その感情や思考(考え方)を打破しようと思いますか。

場面8 対処法の発表とまとめ

各班の意見を発表させそれをまとめていくなかで、薬物の乱用を始めてしまう要因として、  
 1. その人が置かれた心理社会的な状況やそこでの思考様式が大きく関わっていること、そして、  
 2. その問題に対し、建設的で有効な対処法を見つけ出し、それを実行することによって、薬物の乱用を阻止できる（阻止しなければならない）ことを伝え、授業を終える。

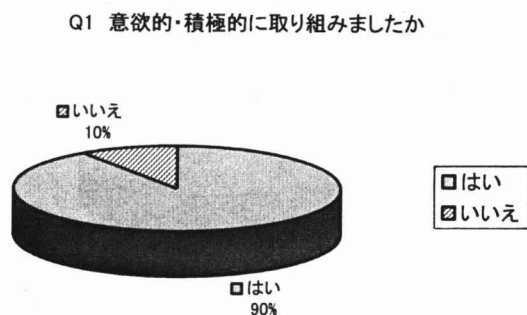
3 授業評価（アンケート結果）ならびに考察

クラスごとの授業終了後、アンケート用紙を配布して高校生たちから本時の授業に対する評価を得た。以下には、そのアンケート項目とそれに対する回答結果、ならびに考察を示す。

なお、アンケートの実施は授業終了直後とし、3つのクラスの113人から回答を得た。

1) 授業への意欲について

Q1 皆さんへ質問します。あなたは今回の「薬物乱用と健康」に関する授業を、意欲的・積極的に取り組むことができましたか。はい、いいえで教えてください。



ここでは、90%の生徒から「意欲的・積極的に授業に取り組んだ」という評価を得た。

その理由の詳細については、Q2において明らかとなるが、いずれにしても、今回の授業全般に対して、ほとんどの高校生が意欲を持って保健の授業に取り組んでいたことは評価に値することであろう

2) 授業への意欲について～理由～

Q2 上のQ1において「はい」に○をした人に質問します。その理由を教えてください。以下の1～7までの理由のなかで、当てはまるもの全てに○をつけてください。

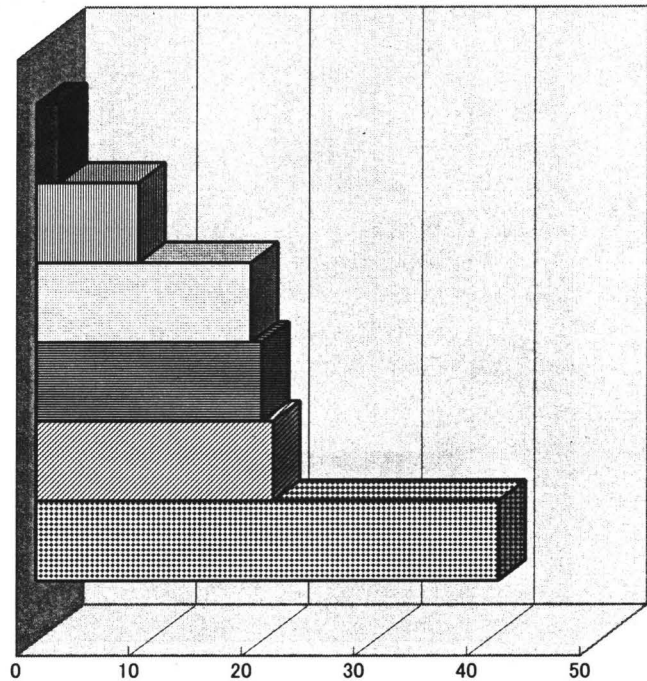
1. 保健の授業を意欲的・積極的に取り組むことは生徒として当たり前のことだから
2. 薬物乱用の害について詳しく学びたいと思っていたから
3. 教材に工夫があったから
4. 先生が熱心に授業をしていたから
5. グループでの話し合いの活動があったから
6. 授業の進め方・やり方に興味を持てたから



## 7. その他

Q2 理由

- 教材に工夫があったから
- 授業の進め方・やり方に興味を持てたから
- 先生が熱心に授業をしていたから
- グループでの話し合いの活動があったから
- 保健の授業を意欲的・積極的に取り組むことは生徒として当たり前のことだから
- 薬物乱用の害について詳しく学びたいと思っていたから



「意欲的・積極的に授業に取り組めた理由」についての質問であるが、その回答からも現在の高校生には「薬物乱用の害について詳しく知りたい」という高いニーズがあることを伺い知ることができた。また、「授業中のグループ活動」に対して、その価値を評価する高校生も多く、今回のような授業スタイルの効果を改めて確認することができた。

## 3) 薬物乱用の有害性に関する知識量・理解度について

Q3-Q4 薬物乱用は人間の心身に多くの害を及ぼします。このことに関するあなたの知識量・理解度を、「今回の授業を受ける前」と「今回の授業を受けた後」のそれぞれの時点において教えてください。

次のなかで、あなたの知識量・理解度の状況について一番近いものに○をつけてください。

## Q3 「授業を受ける前」のあなた

薬物乱用が人間の心身に及ぼす害について、

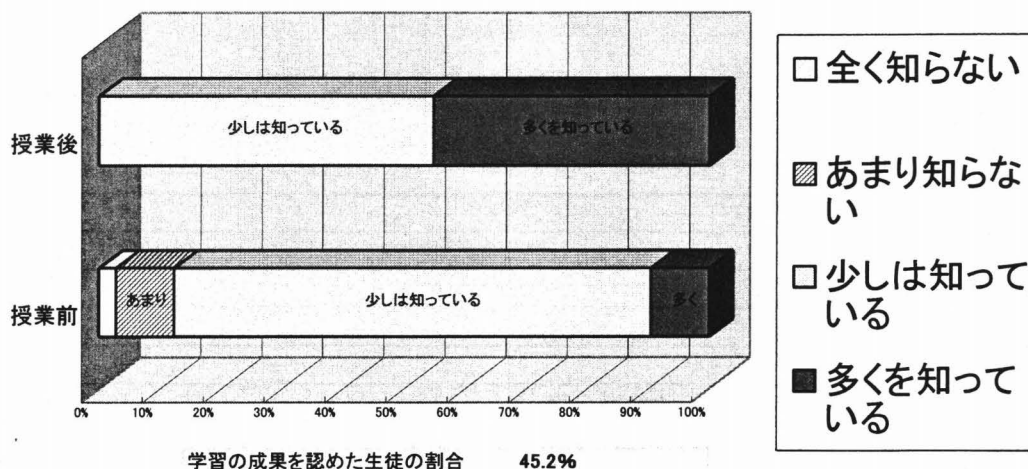
1. 全く知らなかった。 2. あまり知らなかった。 3. 少しは知っていた。 4. 多くのことを知っていた。

## Q4 「授業を受けた後」のあなた

薬物乱用が人間の心身に及ぼす害について、

1. 全く知らない。 2. あまり知らない。 3. 少しは知っている。 4. 多くのことを知っている。

Q3.4 薬物の害 知識量・理解度 (授業前後)



今回の授業が「薬物の害」に対する知識量・理解度をどれほどの高校生が高めることが出来たかについての結果であるが、約45%の生徒が今回の授業で「学習の成果あり」と回答した。

授業後において、「全く知らない」「あまり知らない」の生徒が0%であることは、今回の授業の成果のひとつであるといえよう。

#### 4) 薬物乱用者の増加に関する認識について

Q5—Q6 覚せい剤や麻薬などの薬物は、残念なことながら、私たちの生活の身近なところに迫ってきているとも言われています。また、覚せい剤をエスとかスピードなどと呼んだり、一般に見慣れた錠剤の形にしたりして、私たちの薬物に対する抵抗感を低下させる状況も生まれています。

このことに関するあなたの認識の程度について、「今回の授業を受ける前」と「今回の授業を受けた後」のそれぞれの時点において教えてください。Q5 Q6 の1～4のなかで、あなたの認識の程度に一番近いものに○をつけてください。

#### Q5 「授業を受ける前」のあなた

薬物が私たちの生活の身近なところまで迫っているということについて、

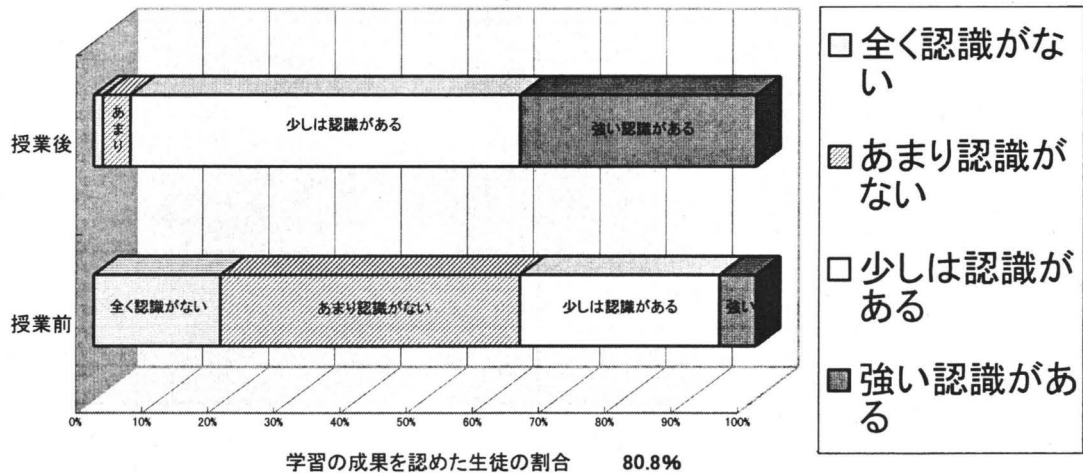
1. 全く認識がなかった。 2. あまり認識がなかった。 3. 少しは認識があった。 4. 強い認識があった。

#### Q6 「授業を受けた後」のあなた

薬物が私たちの生活の身近なところまで迫っているということについて、

1. 全く認識がない。 2. あまり認識がない。 3. 少しは認識がある。 4. 強い認識がある。

Q5.6 身近に迫った覚せい剤 認識 (授業前後)



ここでは「覚せい剤や麻薬などの薬物が私たちの生活の身近なところに迫ってきていること」に対する「認識度」について回答を求めたが、約80.8%の生徒が「本授業において、その認識が高まった」という回答を示した。特に授業前の「あまり認識がない」「全く認識がない」という割合が、授業後には極めて少なくなったことは、当授業の学習内容の価値のひとつを示しているものと言えよう。

#### 5) 薬物乱用にいたる心理的理由に関する認識について

Q7-Q8 薬物乱用が人間の心身に多くの害をもたらすことを人間は理解していても、心理的にきつい時や大きなプレッシャーを感じた時、また、淋しい思いが続いた場合など、人間は、残念なことながら薬物の「天使の顔」のみをイメージに浮かべ、実際にその薬物に手を出してしまう可能性が高くなることがあるとされています。

このことに関するあなたの認識の程度について、「今回の授業を受ける前」と「今回の授業を受けた後」のそれぞれの時点において教えてください。Q7 Q8 の1~4のなかで、あなたの認識の程度に一番近いものに○をつけてください。

#### Q7 「授業を受ける前」のあなた

薬物の害についての理解があっても、心理的な状態によっては、人間は薬物に手を出してしまうおうとする気持ち(心)を生じさせてしまうことがあるということについて、

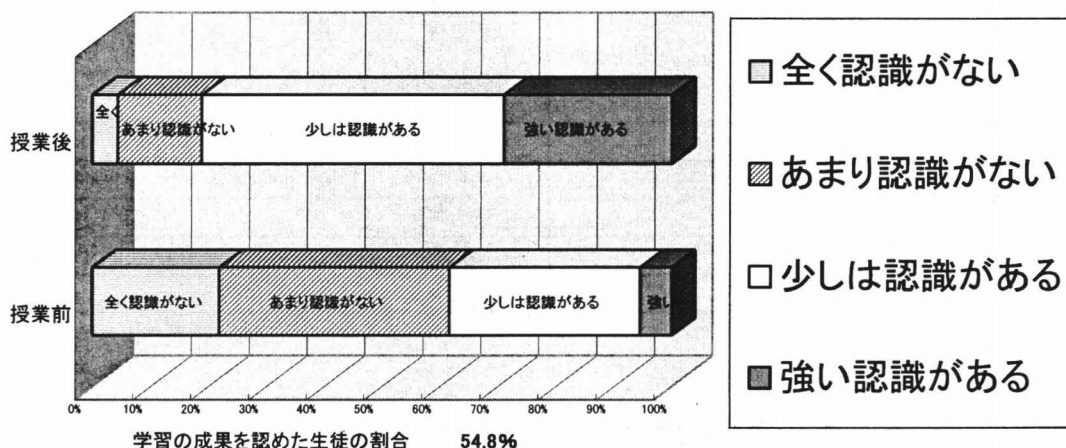
1. 全く認識がなかった。 2. あまり認識がなかった。 3. 少しは認識があった。 4. 強い認識があった。

#### Q8 「授業を受けた後」のあなた

薬物の害についての理解があっても、心理的な状態によっては、人間は薬物に手を出してしまうおうとする気持ち(心)を生じさせてしまうことがあるということについて、

1. 全く認識がない。2. あまり認識がない。3. 少しは認識がある。4. 強い認識がある。

Q7.8 ストレス時の危険度認識（授業前後）



ここでは「心理的にきつい時や大きなプレッシャーを感じた時、また、淋しい思いが続いた場合などに、人間は薬物に手を出してしまう可能性が高くなることのあることの認識度」について回答を求めたが、約54.8%の生徒が「本授業において、その認識が高まった」という回答を示した。特に授業前の「あまり認識がない」「全く認識がない」という割合が、授業後には極めて少なくなったことは、当授業の学習内容の価値のひとつを示しているものと言えよう。

6) 薬物乱用防止に関する認識について

Q9- Q10 心理的にきつい時や大きなプレッシャーを感じた時、また、淋しい思いが続いた場合などに、さまざまな対処法や問題解決の方法を見付け出しそれを実行することは、人間が薬物乱用に陥らないためにも大変重要であると言われてています。

このことに関するあなたの認識の程度について、「今回の授業を受ける前」と「今回の授業を受けた後」のそれぞれの時点において教えてください。Q9 Q10 の1～4のなかで、あなたの認識の程度に一番近いものに○をつけてください。

Q9 「授業を受ける前」のあなた

良くない心理的状况に対して、さまざまな対処法や問題解決の方法を見付け出しそれを実行することは、大変重要であるということについて、

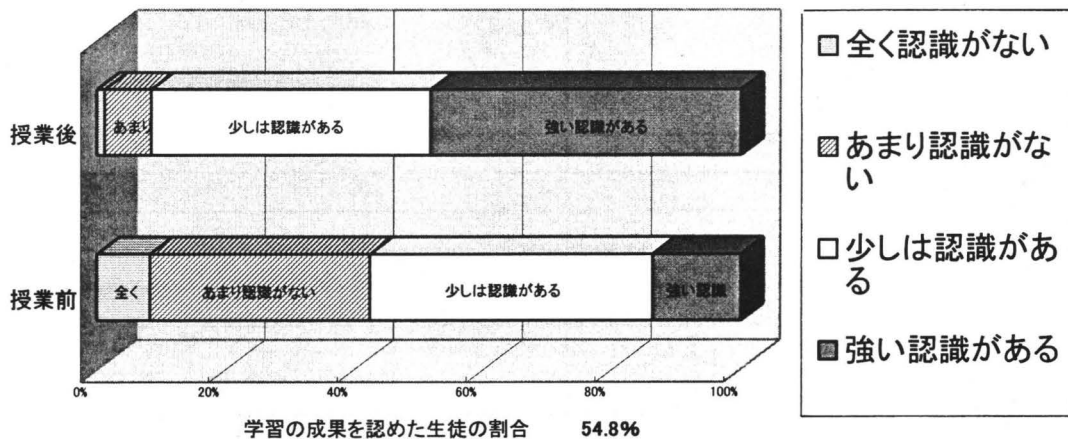
1. 全く認識がなかった。2. あまり認識がなかった。3. 少しは認識があった。4.強い認識があった。

Q10 「授業を受けた後」のあなた

良くない心理的状况に対して、さまざまな対処法や問題解決の方法を見付け出しそれを実行することは、大変重要であるということについて、

1. 全く認識がない。2. あまり認識がない。3. 少しは認識がある。4. 強い認識がある。

Q9.10 対処法の発見と実施の重要性 認識 (授業前後)



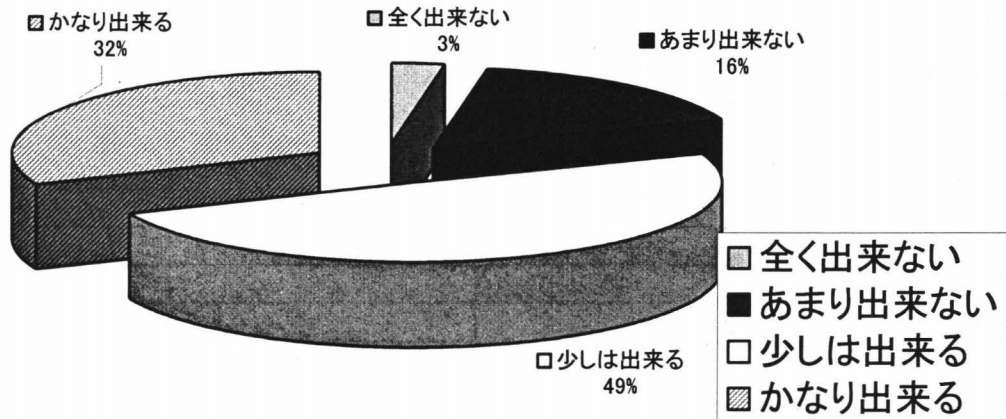
ここでは「心理的にきつい時や大きなプレッシャーを感じた時、また、淋しい思いが続いた場合などに、さまざまな対処法や問題解決の方法を見付け出しそれを実行することは、人間が薬物乱用に陥らないためにも大変重要であることの認識度」について回答を求めたが、約54.8%の生徒が「本授業において、その認識が高まった」という回答を示した。特に授業前の「あまり認識がない」「全く認識がない」という割合が、授業後には極めて少なくなったことは、当授業の学習内容の価値のひとつを示しているものと言えよう。

#### 7) 薬物乱用防止のための対処方法の獲得について

Q11 今後あなたは、心理的にきつい体験、大きなプレッシャーを与えられる体験、淋しい思いが長く続いてしまう体験などを味合うことがあるかもしれません。このような体験は、あなたの心の状態を不安定にさせるものと思われます。そのような時、あなたは、さまざまな対処法や問題解決の方法を見付け出し、それを実行することで、その不安定な心の状態を改善することができるでしょうか。あなたの自身の予想を以下から選び、数字に○をつけてください。

1. 今回の授業で勉強はしたが、全くできないと思う。
2. 今回の授業で勉強はしたが、あまりできないと思う。
3. 今回の授業で勉強はしたので、少しはできると思う。
4. 今回の授業で勉強はしたので、かなりできると思う。

Q11 対処・問題解決能力の自己評価



ここでは、「実際の生活場面において心の状態が不安定になったとき、さまざまな対処法や問題解決の方法を用いて、その心の不安定な状況を改善することが出来るか」について回答を求めた。「心の不安定な状況を正当な方法で改善する」という「対処能力」の育成を学習のねらいのひとつとして、今回の授業では位置づけていた訳であるが、「かなり出来る」、「少しは出来る」と回答した生徒は約81%にも上り、このことは当授業の学習のねらいがある程度は実現されたものと言えるのではないだろうか。

しかしながら、「あまり出来ない」「全く出来ない」と回答した生徒も約19%に及んでいることを受け、そのような生徒に対応した授業方法の開発を目指さなければならないことと同時に、事後の個別的な支援も重要となってくることをあらためて感じた。

#### 4 おわりに

本稿では、高等学校における薬物乱用防止教育の一事例を示した。一時間の授業ではあったが、高校生に対し「薬物」というものがどれほど人間の健康を害し人生を狂わせていくかについて示すことが出来たとともに、ドキュメンタリー番組の一部を視聴教材として活用することを通して、現代社会の実情として「薬物」というものが広く出回っていること、またその状況下においては「薬物」の入手は難しくはないことを理解させることが出来た。その上で、「いかにすれば薬物の誘惑を断ち切ることができるか」、「いかにすれば薬物を利用しない人生を歩むことができるか」についての意志決定・行動選択の能力の一端を高めることが出来た。

今後は、今回開発・実施した授業をさらに多くの学校で実践し、高校生からの授業評価のデータをより多く蓄積することで、授業内容・授業方法のさらなる改善を図っていきたいと考える。

## 参考文献

- 1) 青春期の薬物乱用 斎藤学 開隆堂出版 2003
- 2) 解決へのステップ Berg, Insoo Kim 金剛出版 2003
- 3) 保健授業 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育 少年写真新聞社 2002
- 4) 覚せい剤・薬物乱用防止教育入門 原田幸男 学事出版 2001
- 5) 薬物乱用防止の知識とその教育 石川哲也 薬事日報社 2000